

1号墳とは並び墓か？

④ムネサカ古墳(2号墳)



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
円墳	直径約23m	横穴式石室	7C中頃	

ムネサカ古墳(1号墳)の北西側に位置する古墳で、同一丘陵上に隣接して築造されており、その関係が注目される。墳丘の規模は直径約23m・高さ約5mで1号墳よりひとまわり小さく円墳と思われる。

埋葬施設は南向きに開口した両袖式の横穴式石室で、1号墳同様、花崗岩の大型の切石状の石材が用いられ、全長は約10mで土砂が多量に石室内に入り込み、高さは開口部で約60cm、高いところでも約120cmで奥壁・側壁共に2石の2段積みの様子が見て取れる。

築造年代は、本格的な調査が行われていないので詳細は不明であるが、石材の加工等、1号墳より若干古い要素が見られるものの、さほど年代差はなく7世紀中頃の築造と思われる。石室内の見学は可能であるが、かなりの圧迫感があり開口部からの見学がおすすめ。

栗原谷を見下ろす巨石古墳

⑤越塚古墳



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
円墳	直径約43m	横穴式石室	6C末頃	国史跡

県史跡の越塚古墳は、この地域では赤坂天王山古墳(1号墳)やムネサカ古墳(1号墳)と並ぶ巨大な横穴式石室を持つ古墳で、栗原川に向かって西北に伸びる丘陵を切断し盛土した直径約43m、高さ約7mの2段築成の円墳である。

埋葬施設は、南南西に開口する両袖式の横穴式石室で、全長が15.4mに棺を納めた玄室は長さ5.2m、幅2.5m、高さが3.8mと天井の高い形式である。持ち送りは比較的緩やかで、玄室内には二上山産凝灰岩でつくられた組合式の石棺の底石と側石の一部が残り、玄室内には小礫が敷かれている。羨道は長さが約10.2m、幅約1.7m、高さ約1.9m。石材は、付近で産出する花崗岩の自然石を巧みに使って作られている。早くから開口していた為、出土品等は知られていないが、石室の様式からみて6世紀末の古墳と思われる。尚、見学は自由にできるが懐中電灯が必要。

公園内に残された6世紀代の小古墳

③竜谷古墳群

(朝倉台)



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
円墳	直径10~18m	横穴式石室 ほか	6C代	

外鎌山北麓の団地造成に伴い調査され、竜谷6~9号墳が朝倉台2号公園で現地保存されている。いずれも径10~15m程度の小円墳。

- 6号墳：直径約10mの円墳で左片袖式の横穴式石室。玄室長約3.1m、幅約1.6m。出土遺物は金環、鉄刀片、鉄鏃、須恵器、土師器など築造時期は6世紀前半。
- 7号墳：直径約16mの円墳で掘割がある。石室は全長約6.3m、玄室長約3.4m、幅約1.7m、羨道部長約2.7m、幅約1.2m出土遺物は刀子、鉄くぎ、須恵器など築造時期は6号墳とほぼ同じ6世紀前半。
- 8号墳：直径約18mの円墳で掘割を持つ。石室規模は現存長約4.5mで幅約2.4m、現存高約2m。出土遺物は水晶製三輪玉、耳環、鉄鉾、刀子築造時期は須恵器、土師器などで築造時期は6世紀やや下がる頃。
- 9号墳：木棺直葬で墓壇は幅約55cm、現存長約1.7m、深さ約10cmで出土遺物として須恵器の杯身、杯蓋があり築造時期は6世紀初頭でこの中では一番古い古墳である。

おおばら
栗原周辺の古墳探訪



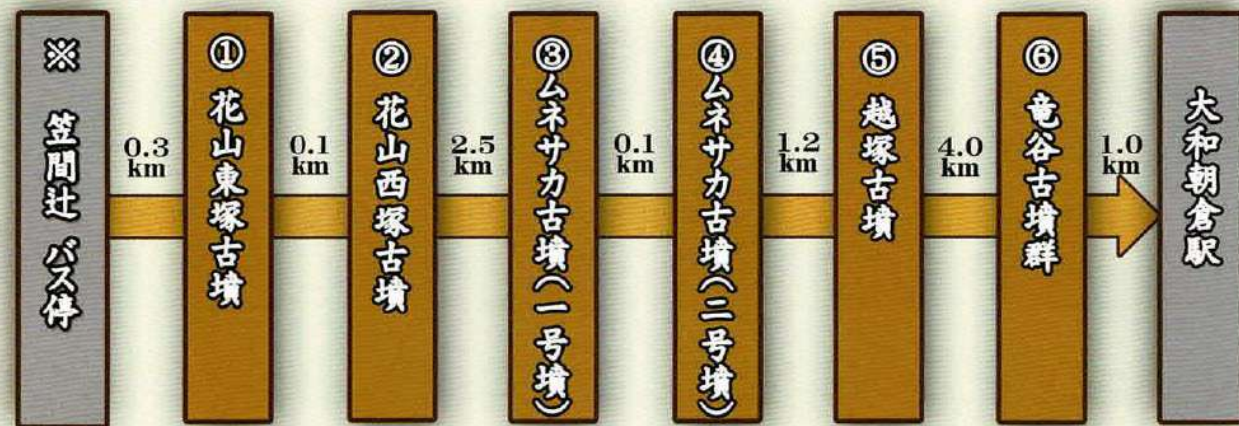
花山西塚古墳(国史跡)

～体験しよう！桜井の古墳ワールド！～

桜井市の市街地の東部、忍阪から女寄峠を経て宇陀へ向かう国道166号線沿いの栗原谷は終末期の古墳が点在する地域として知られています。越塚古墳、ムネサカ古墳(共に県史跡)のような大型の横穴式石室を持つ古墳の他、榛原石をレンガ積みの手法で築き上げた磚積石室を持つ花山東塚古墳や花山西塚古墳(国史跡)が知られています。しかしながらほとんどは山の中にあり探しにくい所でもあります。この冊子では出来るだけ現地の写真を入れ探索の参考になるよう工夫しました。古代のタイムカプセルともいべき古墳の数々を、歴史の息吹を感じながらこの機会に是非体験ください。

モデルコース(※全行程約10km)

※桜井駅からバス利用の場合



※桜井駅南口～笠間辻(かさまつじ)まではバス利用がおすすめです。桜井駅南口で大字陀(おおうだ)行に乗車ください。乗車時間は約16分です。(雨天や足元の悪い時は山間部にある花山東塚・西塚古墳、ムネサカ古墳は遠慮ください。)

古墳探訪・・・その前に

日本のはじまりの地、桜井市には、女王卑弥呼の墓ではないかと言われる箸墓古墳をはじめ、ヤマト王権発祥の地に相応しい古墳が数多く残ります。

そんな桜井の古墳の中から、今回は栗原周辺にスポットを当て探訪可能な、おすすめの古墳についてご案内いたします。出かける前には以下の事に留意され古墳探訪をしていただくようお願いいたします。

①マナーを守ろう！

- 今回、ご案内の古墳の多くは横穴式石室が開口しており石室内に入り見学する事ができます。しかしながら古墳は文化財であると同時にお墓であるという事を忘れてはなりません。近くに所有者の方、あるいは、ご近所の方がおられれば、お声がけしてから入ってください。
- 古墳の石材や遺物を持ち帰ることは法律により罰せられます。

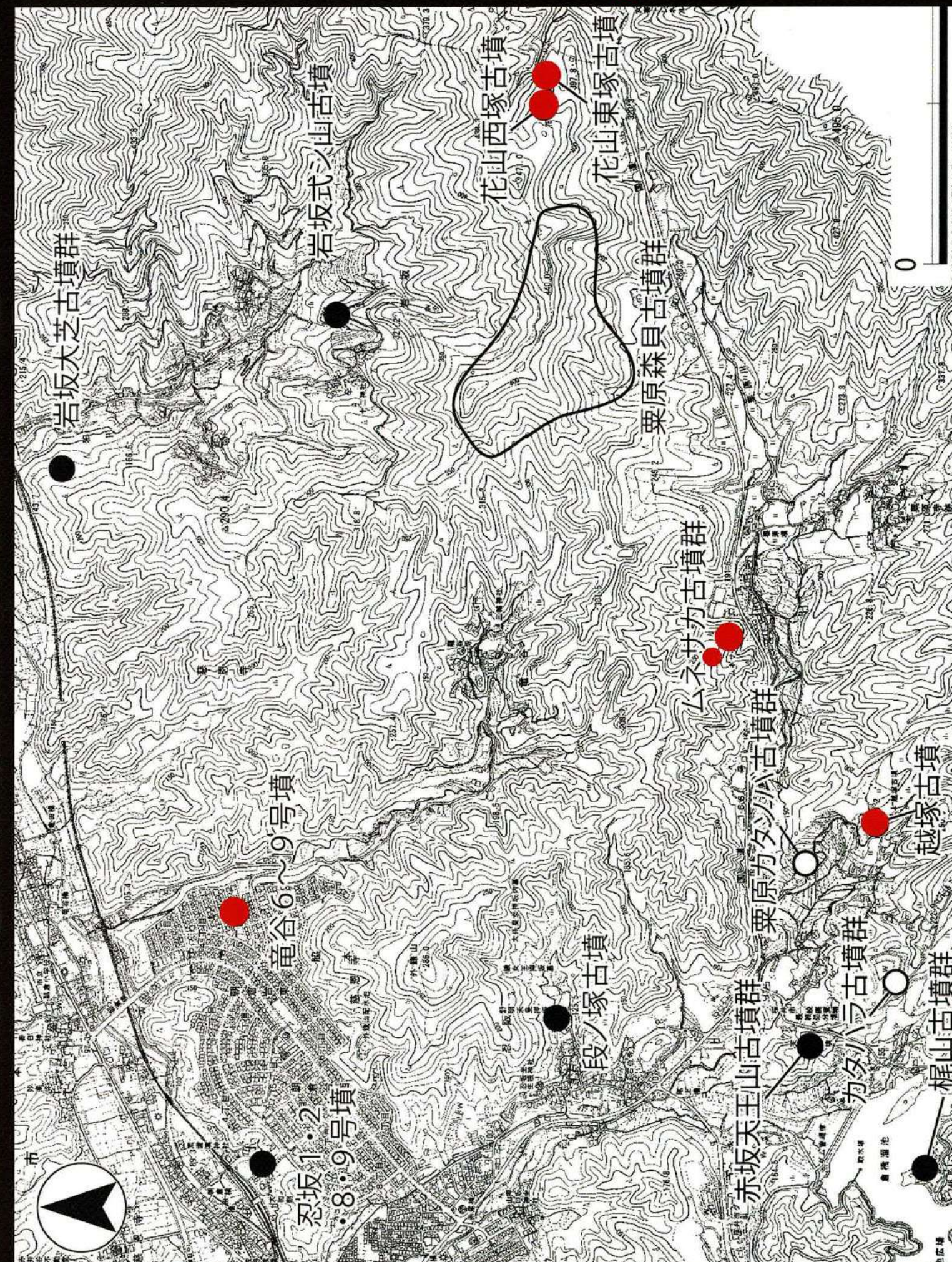
②安全に！

場所によっては、雑草や熊笹が生い茂り、道なき道を探索する場合もあるかと思しますのでくれぐれも安全対策の上、お出かけください。(このコースでは軽登山靴、軍手、帽子、磁石、懐中電灯、GPS付携帯電話等の持参がいいでしょう)

本小冊子のデータや写真は取材当時(2018年10月)のものであり、その後、変化している場合がありますのでご了承がいます。

栗原周辺古墳マップ

●印はこの冊子で紹介している古墳



このマップは桜井市文化財協会発行の「桜井の横穴式石室を訪ねて」から引用しています。(一部加筆)

古墳探訪ガイド

花山東塚古墳



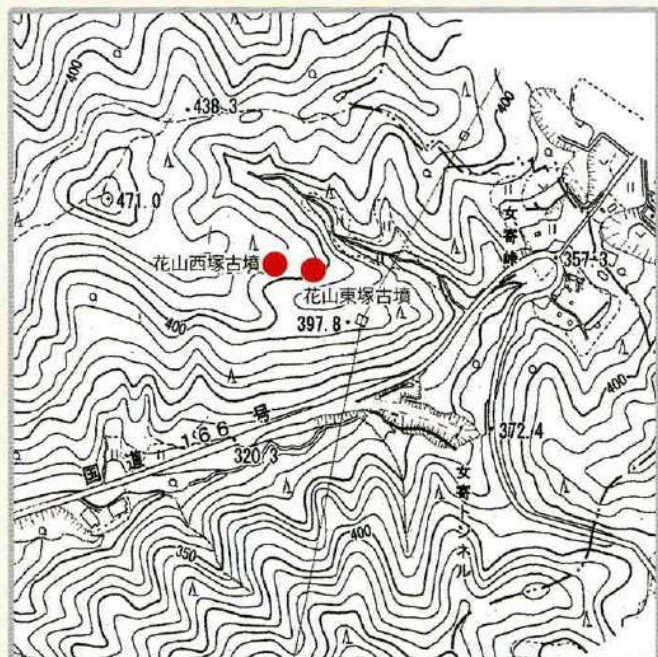
- ① ※笠間辻バス停で下車し、信号を通り抜け左手(北側)の旧道を20~30m歩くと左側に山に入る道があります。
- ② ここから約10分で花山東塚古墳に到着し、更に約3分位の所に花山西塚古墳があります。まずはこの道を直進してください
- ③ 1~2分歩くと右手に黄色いフェンス状の柵があります。④すぐ左手に古墳に向かう山道があります。
- ⑤ 登り始めるとすぐに二手に別れる道がありますが写真のように右上に進んでください
- ⑥ そのまま道なりに沿って登ってください。ポイント各所にテープと赤い布が木に巻き付けられています。
- ⑦ 更に登ると写真のような木があり赤い布が巻かれていますので左折してください。もう少しで到着です
- ⑧ 少し進むと右側に説明板が見えてきます。石室は開口しており少ししかがめば中に入れます。

花山西塚古墳



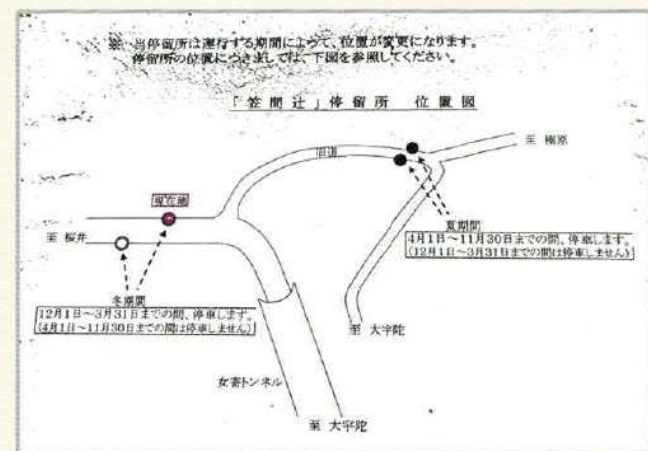
- 花山西塚古墳に向かう道は目印になる物がないので下図を参考に花山西塚古墳の横にある花山塚古墳の表示石を目指し探索下さい。
- ① 花山東塚古墳の開口部に向かって左方向に進みます。
 - ② 木に巻き付けられたテープを参考に基本的には西方向に進んで下さい。
 - ③ 30m前後進むと少し分かりにくいですが木々の間から花山塚古墳の表示石が見えてきます。
 - ④ そのまま進むと花山西塚古墳の防護柵が見えてきます。

尚、柵の上部に扉があり入出は可能ですが結構きついで体力のない方、小柄な方等は出られなくなる恐れもあり、無理をしないようお願いします。(単独行動は避けてください。)



マップは桜井市文化財協会発行の「桜井の横穴式石室」より引用(一部加筆)

※ 奈良交通の笠間辻の停留所の位置は季節によって変わりますのでご注意ください。(奈良交通表示板より引用)



探し難い古墳を写真地図でご案内!

ムネサカ古墳(2号墳)



- ① 栗原バス停を少し降りたところに「森本運輸」の看板があります。
- ② 森本運輸さんの事務所で敷地内通過の許可をいただきます。
- ③ 矢印の方向に進み左折します。
- ④ この林道からムネサカ古墳に向かいます。(順調にいけば約10分で到着です。)
- ⑤ 林道に入るとすぐに急な上り坂があります。(足元の悪いときは滑らないようにご注意ください。)
- ⑥ 上り切った所で道が分かれてますが写真のように左側の道に向かいます(ここに小さな行先表示があります。)
- ⑦ しばらくそのまま足元に注意しながら登り続けます。約5分前後でムネサカ古墳(2号墳)の開口部が見えてきます
- ⑧ これがムネサカ古墳(2号墳)の開口部です。(石室内は土砂が入り込み見学困難)

ムネサカ古墳(1号墳)



- ① ムネサカ古墳(2号墳)の南東にあります。
- ② 写真のように、比較的平坦なところを歩きながら、登りやすい場所から上ります。
- ③ 頂部まで登ると、比較的平坦な場所に、写真のように横穴式石室が見えてきます。
- ④ 石室の開口部です。(見学可能です。ただし懐中電灯必要)



マップは桜井市文化財協会発行の「桜井の横穴式石室」から引用(一部加筆)

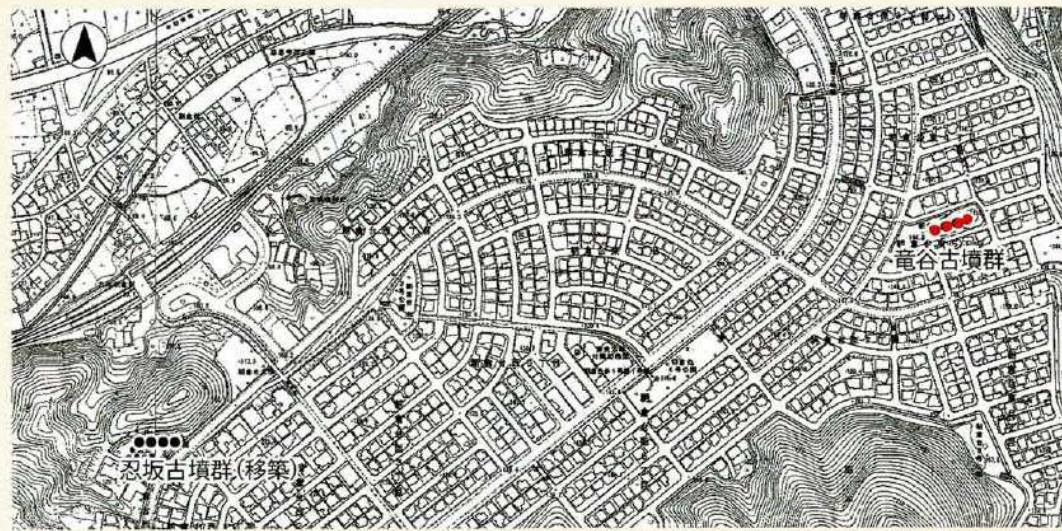
古墳探訪ガイド

越塚古墳



ムネサカ古墳の探訪の後には越塚古墳に向かいます。

- ① 栗原バス停横の国道を横断し、国道に並行する旧道を道なりに約10分ほど西に歩くと、大和瓦の看板が見えてきます。
- ② 国道に出る左手前にある橋を渡ります。
- ③ すぐに左折します
- ④ 民家のわき道を通りすぎます
- ⑤ そのまま進むと右手に小屋があります。
- ⑥ しばらく進むと獣害防止柵の入口に着きます。施錠されていないので入れますが、必ずもとに戻してください。
- ⑦ 右方向に少し上り坂になりますが、道なりに沿って進み、写真の場所で左折してください。
- ⑧ 直進し、突き当りの左手に民家と越塚古墳の看板が見えてきます。



竜谷古墳群



朝倉台という団地の中に保存されている古墳です。この冊子では越塚古墳を見学後、忍坂の集落を通り朝倉台に向かうルートで記載しています。(この古墳群を単独で見学される場合は近鉄大和朝倉駅下車で駅のロータリーにある住宅地図の看板を参考に朝倉台6号公園を目指してください)

- ① 忍坂青幡町の用水路横の道を通り過ぎると、朝倉台のメイン道路が見えてくるので、そこを右折します。
- ② 緩やかな上り坂をしばらく(約5分)直進すると、信号と「竜谷」の看板が見えますので、この信号を右折します。
- ③ マップを参考に三つ目の辻を左折します。
- ④ 突き当りの右側の森が竜谷古墳群です。(別の入口もあります)

栗原周辺の古墳探訪(1)

身近で珍しい磚積墳を実感できる

① 花山東塚古墳



(栗原)



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
円墳	直径約15m	横穴式石室	7C後半頃	

栗原谷の東端、女寄峠手前の標高約400mの尾根の南斜面に花山西塚・東塚古墳は築かれている。墳丘は尾根の斜面を馬蹄形に整形し中央部に、およそ直径15m、高さ3mの墳丘がつけられている。同じ尾根の北西約50mにある花山西塚古墳と立地や石室の技法の共通性から計画的に配置された双墓ではないかと考えられている。

墳丘の南側に開口している石室は、レンガ状の榛原石を漆喰で塗り固めてつくる磚積墳で、羨道部は既に破壊されているが、残された玄室との関係から横穴式石室と思われる。玄室部は長さ約3.1m、幅約1.5m、現状高は約1.2mでレンガ状に加工された榛原石を漆喰で塗り固め、わずかに内傾させながら積み上げている。(現状見える部分で16段以上)天井部は花崗岩を4石架構し、玄室の壁面には全面に漆喰が施されている。早くから盗掘され出土遺物は全く知られていないが、他の磚積式石室との比較から築造年代は7世紀の後半頃と考えられている。

代表的な磚積式の横穴式石槨

② 花山西塚古墳



(栗原)



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
円墳	直径約16m	横穴式石槨	7C後半頃	国史跡

花山東塚古墳と同じ尾根上の南斜面に築かれた古墳で、南南西に開口部を持つ直径約16mの円墳である。埋葬施設は通常の横穴式石室と異なり、羨道と玄室(前室)の奥に奥室が取り付け横穴式石槨というタイプに属する古墳である。側壁は、榛原石を漆喰で塗り固め積上げた花山東塚古墳と共通する技法で構築されている。

被葬者を安置した奥室は前室より約10cm高い位置につくられ、天井と底石は平石、奥壁は切石でつくられ、玄室(前室)との境は石扉で閉塞されていた事を示す軸穴の痕跡がある。使われていた石扉は現在、奥室の前に横たわっている。玄室(前室)は長さ約2.2m、幅約1.3m、高さが約1.7mで側壁を1.2mあたりから内傾させ天井は花崗岩でつくられている。羨道は前室幅より狭く両袖式の形状である。遺物は全く知られていないが、墳丘構造や磚積の技法などから築造時期は7世紀後半と思われる。榛原石を使った磚積式石室は朝鮮半島などで見られる形式であることから被葬者は渡来系の人ではないかと考えられ、榛原や栗原谷筋というごく限られた地域に分布している。

山奥にある双墓状の大型石室墳!

③ ムネサカ古墳(1号墳)



(栗原)



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
円墳	直径約45m	横穴式石室	7C中頃	県史跡

栗原川の右岸の丘陵南斜面を整形して東西に双墓状の円墳がつけられている。東の円墳が県史跡のムネサカ古墳(1号墳)で古墳の規模は、現状で直径約45m、高さ約8mの2段築成の古墳で葺石状の石材がみられる。

埋葬施設は、南に開口する両袖式の横穴式石室で石室規模は全長が16.6m、玄室長4.6m、幅2.7mで奥壁、側壁ともに2段積みの花崗岩の切石で玄室側石と天井石の隙間には漆喰が残存している。又、玄室床面には不揃いの敷石が敷かれ壁に接する方を低くして置かれており排水施設との関連も考えられる。また敷石と敷石の間から凝灰岩の細片が見つかり、石棺が収められていたと思われる。

古墳の作られた年代は、横穴式石室の形態、規模が明日香村の岩屋山古墳と類似することから7世紀中頃と推測される。